

# 原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合

## 第92回

平成26年3月12日（水）

原子力規制委員会

崎委員先生からいただいていますラブ波の検討です。それから、当然これは現在も連続観測をずっとやってございますので、引き続き連続データは今蓄積中で、干渉法のいわゆるモデルの高度化とか、データの精緻化ということで、今後とも努めていきたいと考えてございます。

説明は以上でございます。

○島崎委員 それでは質疑に入りたいと思います。

森田さん、どうぞ。

○森田調整官 御説明どうもありがとうございました。地下構造の評価については、昨年の8月、9月の議論からずっと追加調査も思慮されながら情報を出してきていただいて、昨年11月以降は、今日のメーンの話である干渉法という提案をされて、精力的にデータをとられて、先週の会合でこちらとしてもお聞きしたところでございます。

今日のところは、ちょっと両発電所について、今後の方針をお示しいただいたところですけれども、前回の会議での議論の継続の部分もありまして、例えばもう既に最後のページに書いておられるラブ波の問題だとか、継続して考えなければならない課題もありますので、今日のところはこの1ページ目、2ページ目の御説明いただいたところは承りましたけれども、やはり実際のデータを考えながら、この両比については判断しなければならないかなと思います。これは震源特定せずも含めてです。

という感想を持ちましたけれども、ちょっと細かいところで具体的なインバージョン解析のことも一つ質問したいのですけれども、御説明いただいたところで、簡単に言うと4ページ目の、この流れのところを拝見すればいいのですけど、4ページ目に概略、概要を説明していただいている、右上のインバージョン解析のところを「50の解から平均的に一番近いもの」と書いておられるのですけど、変数としているのは、P波速度だけですか、それとも何かあるいは $V_p$ と $V_s$ は完全に独立した変数として扱っているんですか、それとも何らかのひもづけをして、リンクして解析しているのでしょうか。先週お尋ねすればいいような質問で恐縮ですけど。先週の資料。

○関西電力（岡崎） すみません。ちょっと今出しますので。

○森田調整官 107ページでございます。

○関西電力（岡崎） これですね。一応 $V_p$ 、 $V_s$ をもちろん独立で考えているわけですが、層厚をそれぞれの層で、この幅で動かしながら解を求めていくというやり方なんですけど、それで50通りと申し上げたのは、この薄い線が50通りのそれぞれ得られています結果でござ

ざいまして、そのものに平均モデルを一旦50の平均というのを取って、その平均に一番近いものがこの実線のケースということで、今回設定したということでございます。

○森田調整官　そうですか。じゃあ $V_p$ と $V_s$ は完全に独立している変数として条件が出てきて、拘束されているのは層厚の両端が。

○関西電力（岡崎）　そうです。ちょっとここ非常に細かくしているというのが今回のあれでして、 $V_s$ でいいますと100mオーダーで細かく切って、できるだけこの辺です。ここをきっちりちゃんと捉えようという意図でやったというのが、今回の検討です。

○森田調整官　もう一つ細かい話で、このページで密度は、これは定数として与えられている。

○関西電力（岡崎）　一応上のところは既存のよく知られているような経験式で、 $V_p$ から出る経験式として出しているんですが、それより下は敷地のものを見て、大体2.7とか2.8ぐらいだったので、一応ここでは固定としてやったということです。

○森田調整官　そうですか。了解しました。ありがとうございます。ラブ波の解析ということで、もしそうした前回の議論の継続の話で、今後見直すようなところがあれば、これが見直しにかかってくるものがあれば、そこはやらなければならないと思いますし、そうした感想を持ちました。以上でございます。

○関西電力（大石）　ラブ波についての検討は、前々回に御指摘いただいておりますので、私どもとして精力的に実施してございます。ただ微動に基づいてレイリー波とラブ波、両方出てくるんですけども、レイリー波とラブ波のいわゆる分離作業というのが、非常にあらゆる方向から来ますので、それにてこずっております、地震動ですと一定方向から参りますので、地震波ですと割と分離できるんですけども、微動がいわゆるあらゆる角度から入ってくる波をレイリー波から、レイリー波の成分をラブ波から取り除く作業を今、しております、これに本当に時間がかかってございまして、何とかラブ波に基づいての推定もしようとは試みておりますが、少しお時間をいただきたいというふうに思っております。

ただ一方で、また再度この7ページをお示ししてございますけども、レイリー波のいわゆる結果が、今回のモデルと非常に整合性がいいということから、このモデルからそう大きく変わることはないというふうなことも感じております。

○島崎委員　ほかにございますか。

どうぞ、小林さん。